

## “Ham Radio” in Friedrichshafen JA3USA 島本正敬

今年もいつものように6月最後の週末の3日間、ドイツのフレドリッヒスハーフェン(Friedrichshafen, FDHと略)で欧州最大のハムフェア Ham Radioが開催されました。このイベントの名称は何と“Ham Radio”、ハム以外の人には判りやすい名前ですが、ハム同志の会話ではイベントの名称と一般の意味でのHam Radioとは区別がつかないこともありますので、ハムの会話では開催される地名がこのイベントの名称として使われます。ドイツとスイスの国境にあるボーデン湖、そのドイツ側の畔にある美しい街です。ここで飛行船のツェッペリンが誕生し、今もツェッペリンの飛行船が観光客を乗せてボーデン湖を飛行しています。一時間の飛行が一人400ユーロ以上しますので、僕は乗ったことがありませんが...



FDHと飛行船

FDHはそれほど大きな町ではありませんが、ボーデン湖を訪れる観光客が多いためか結構な便数の飛行機が飛来しています。LCCを除くと入っている航空会社はルフトハンザとヘレコ航空の2社だけです。日本から行くにはこの2社のいずれかということになります。何でこんな小さな町にヘレコ航空がと思う人が多いようですが、乗り入れ国数世界最大の航空会社と聞けば納得できるかもしれません。

このイベントの規模は米のデイトンには及ばないかもしれませんが、デイトンや東京ハムフェアは米、日の国内イベントで、そこに外国からもハムが訪れるという感じですが、FDHとなると本当に国際的です。欧州各国の無線連盟、ハムクラブ(主にDXクラブ)に加え、イスラエル、アルジェリア、ヘレコ等の欧州周辺国の連盟、それにARRLやデイトンハムベンションのブースに混じって、タイ、台湾、日本のブースもあります。

会場は大きく分けて3棟の格納庫のような形状の建物からなり、一棟にハムの業者や連盟、クラブのブース、他の2会場は雑然としたフリーマーケットになっています。

いずれも結構大きな建物で、雨が降ってもデイトンのように皆が建物内に駆け込みひどい混雑になるといってもいいかもしれません。また、会場内にレストラン、カフェテリア、売店等も完備してデイトンや東京ハムフェアよりはずっと快適な環境です。それに会場とFDHの中心部との間の移動に無料バスが用意されていて、市内のホテルから通うのも便利です。また、会場は前述の空港のターミナルビルから滑走路を隔てただけの場所にあるのも便利です。

新しい機器や関連商品を探すのであれば、このFDHのフェアが最適でしょう。無線機そのものの展示ブースは東京やデイトンより劣るかもしれませんが、周辺機器の豊富さは断然FDHが一番です。従来マーケットには無かった斬新なもの、こんなものがあつたら便利というようなものが業者のブースのあちこちで見かけます。ビックリするくらい軽い同軸ケーブル、ヨットでも使えそうな強度の優れたロープは直径2mmから、IPを介してリモート制御するための各種装置、20GHzや40GHzの機器、コンピュータ制御で動作するチューブやFETの大電力のHF、V/UHFアンプ等々。訪問者の興味対象がそれぞれ異なっても、みんながどこかで何かを見つけては立ち止まって覗き込んでしまいます。



FDH駅前でバスを待つハム



展示棟



フリーマーケット

OMパワーのブースで



大阪からフランクフルト経由、またはイスタンブール経由で2便の乗り継ぎだけで行けますので、大阪からの訪問もデイトンよりずっと楽だと思います。ポーデン湖周辺も綺麗なところですし、フェリーでスイス側に渡ったりオーストリアやリテンシュタインへも短時間で移動できますから、ハムフェア以外を楽しむにも便利なところ。今回はAPDXCでおなじみのI2YSBのDXペディションチーム、UA3AB、RA3AUJ、UA6LBS、YL2GM、K5GS、K4UEEも参加していました。また、3V8SSのAsh、W1NAと彼の友人イタリアからの2名等、今年のAPDXCへ初参加の人達にも会場で顔を合わせることができました。

## 9月のクルーズ

JA3USA 島本正敬



10万トンのクルーズ船

XYL Karenは彼女の母が元気な間、一緒に何度か地中海のクルーズに出かけていました。それがクルーズの相手を失ってから我慢をしていたのでしょ。僕がほぼリタイヤ状態になってからというもの、クルーズへの誘いを頻繁にするようになりました。欧州や米国からのクルーズであれば、例え一週間のクルーズだとしても、出発地までの往復を加えると10日以上になってしまいます。それで、出発地か到着地が日本なら移動のための時間が半分になるからと言っていました。すると、カナダのバンクーバ発で横浜までの16日間のクルーズを見つけましたものですから、とうとう船の旅に行くことになってしまいました。バンクーバを出てアラスカを経由し、小樽、函館、東京と日本の港を回り横浜で終わるとい旅です。これまで毎日のように地中海や大西洋の港に入港し観光をするというパターンの旅をしてきたXYLは、入港回数が少なく航海だけという日の多いクルーズなので、退屈してもうクルーズなんかこぼりと言わないかと心配しています。観光には特に興味が無いので、あちこちを回るよ海を見ている方がと思っていたのですが、ベランダ付きの部屋なので簡単なアンテナをつけて無線ができないかと考え始めました。

この船は米国のクルーズ会社の所有ですが、船籍はマルタなのです。ですから、この船で無線をするには、マルタの免許と船長の許可が必要です。途中通過する領海は米国と日本ですから、WA3USAとJA3USAの免許で問題ないのでしょうか。さっそくマルタの免許申請についてWebで検索するとすぐに免許申請書が現れました。早速必要事項に記入をしてEメールに添付して送ると、申請書に問題はないので日本の免許とパスポートのコピーを送るようこと早速事がありました。

日本の免許のコピーと、その英訳(自分で作った非公式のもの)、それにパスポートのコピーを用意し、ついでにと要求もされていない米国の免許のコピーもメールに添付することになりました。また、ドイツでだれからかマルタのプリフィックス9Hの次の番号3は外人用と聞いたので、ダメもとで、9H3USAをくれたら嬉しいのですが...と希望を述べてメールを送ったところ、米国とは協定があるので免許発行手数料は不要、また9H3USAは僕のためにリザーブしたと嬉しい返事が今朝(6月28日)届きました。ふたつもの幸運！もうやるしかありません。

出港は9月2日。まだ時間があります。次は船長からの許可。うまく行けば良いのですが...

# Win10 と RS232C/USB変換器

JA3AOP / 杉山 暁

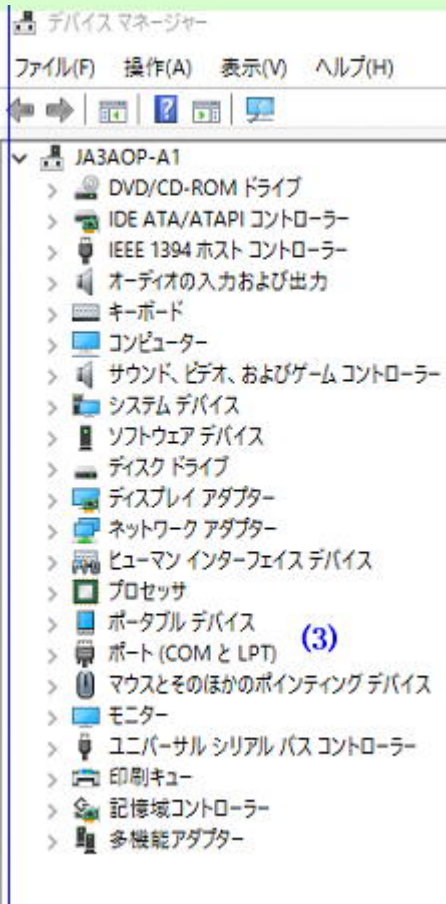
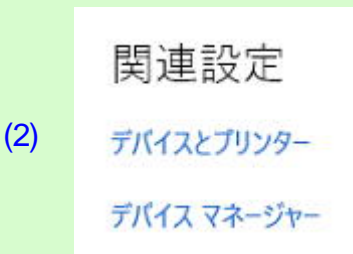
この度、普段使っていないU/VHFのリグもコンテスト・ログに接続するため、以前使用していたELECOMのRS232C/USB変換器 UC-SGT を使ってPCのUSBからリグの周波数とモードを取り入れようとしたのですが、うまく行きません。コンテストログも数種類を取り換えて試しましたがNGです。以前は良好に動作していましたが、2台あるUC-SGT どちらもダメです。

Win10の「設定」を開き、「デバイス」(1)をクリックして、開いた画面の一番下にある「デバイスマネージャー」(2)をクリック。

「デバイスマネージャー」画面で「ポート(COMとLPT)」(3)を開いてみると

Elecom USB-Serial Converter(COM5)にアラームが付いています。(4)そこでこれをダブルクリックすると、変換ポートの設定がうまくできていません。(5)

「ドライバー」を開いて「ドライバーの更新」を実施しましたが、ドライバーには問題が無いようです。



また、「デバイスマネージャー」画面で「ユニバーサル シリアルバスコントローラ」を開いてみると、USB Serial Converter がありません。

ちなみに、ここに表示されている「USB Composite Device」は「USB BIF4CW」で、このCWインターフェイスはWin10でも以前同様に良好に動作しています。

どうやら、Win7からWin10に更新した際にELECOMのUC-SGTはOSの変更に対応しきれなかったのでしょうか。

UC-SGTはWin7までに対応し、Win8、Win10にはUC-SGT1が対応するようです。



Win10 対応のRS232C/ USB変換器をWeb検索してみると iBUFFALOの「BSUSRC06」がAMAZONでの人気も高くWin10でもスムーズに使えているようだし、値段も手ごろだったので購入しました。

アマゾンでのユーザー評価を読んでいると、仕事上、計測器や測定器のデータをノートPCに取り込むことを日常的にやっておられる方々がPCをWin10に更新した際に変換器の不調に見舞われた例が多々あったようで、ユーザー評価での事例紹介は大変参考になりました。

iBUFFALOの「BSUSRC06」を2個購入しました。

USBに挿してみると「デバイスマネージャー」画面で「ポート(COMとPT)」を調べると、COMポートが4個セットされています。COM1,COM4 はPCIバスに直接セットしたRS232Cポートです。COM5,COM6(6)は今回購入したiBUFFALOの「BSUSRC06」RS232C/ USB変換器による増設したCOMポートです。

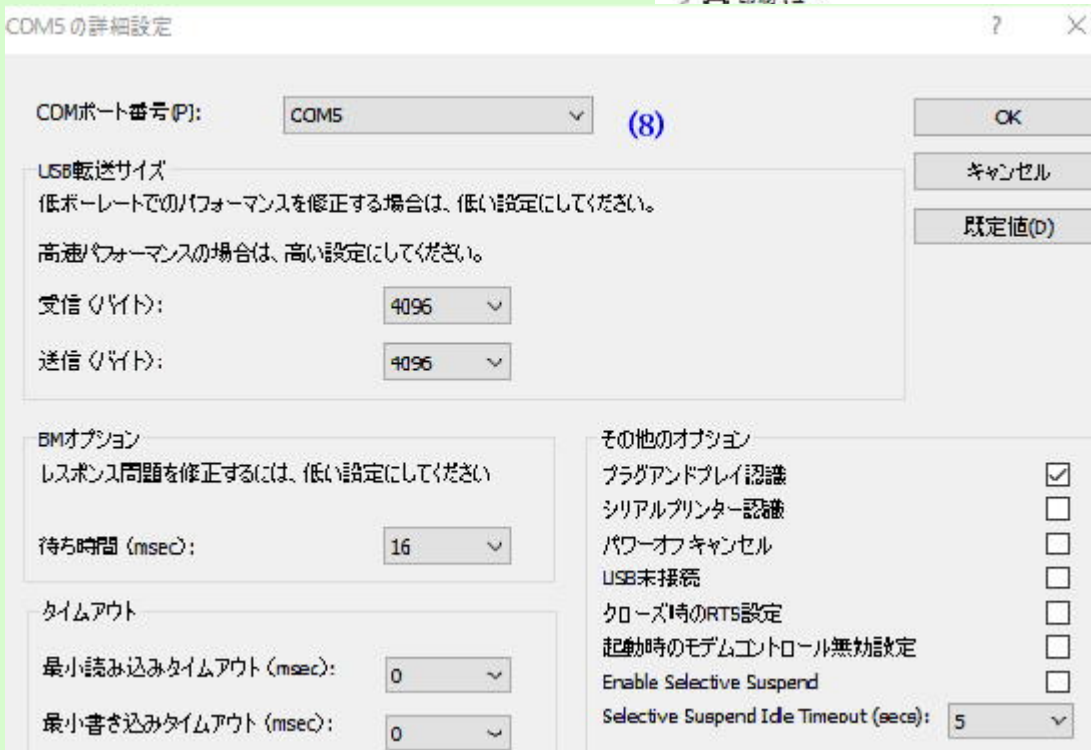
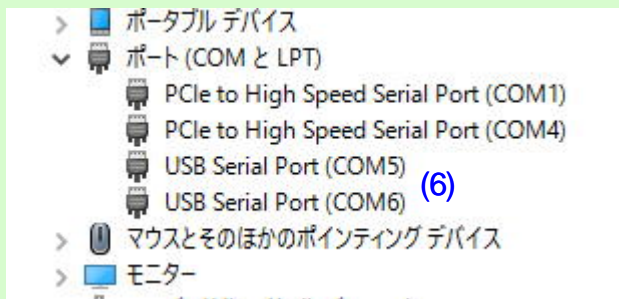
また、「ユニバーサル シリアル バスコントローラ」を開いてみると

USB Serial Converter が2個設定されています。(7)

また使用するポートNo.は既に使用中の番号を避けて、自動的に設定されますが、変更することも可能です。

「デバイスマネージャー」の「ポート(COMとPT)」で「USB Serial Port(COM\*)」を選び、右クリック、「プロパティ」、さらに「ポートの設定」を選ぶと、パラメータの設定ができ、「詳細設定」で「COMポート番号」の変更も出来ます。(8)

RS232C/ USB変換器は、起動するたびにCOM番号が変化するものがありますが、今度購入したものは最初設定した番号が再起動時にも維持されるので使いやすいです。



PCの端子からはRS232Cポートが消えていきますが、計測器、無線機、モデムなど、まだまだシリアルポートを必要とする場合があります。しっかりした設計の変換器が求められますが、変換器の能力は使用するICチップにほぼ全面的に依存しています。FTDI社のチップが信頼できると感じました。詳細な調査をしたわけではありませんので、間違いがあるかもしれませんが、Win10更新によるRS232C/ USB変換器のトラブル解決体験談の一例としてご理解ください。

BSUSRC06



**Asia Pacific DX Convention**  
2016  
<http://apdxc.org> **November 11 - 13**